

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	児童家庭福祉				
担当者氏名	山本 公彦				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・春期

《授業の概要》

わが国において、7人に1人の子どもが、わが国の平均的な所得の半分未満の収入で生活している家庭で暮らしている状況である。本教科では、子どもと保護者のおかれている現実を様々な視点から概観し、子どもとその家族が安心して生活できる条件について考察を行う。その上で児童家庭福祉に関する法制度や実施体系について理解を深め、今後の展望について考える。

授業は、教科書の項目に沿って講義を進行する。

《授業の到達目標》

保育所・児童福祉施設などの福祉現場、幼稚園・小学校などの教育現場での実践に役立つ知識の習得を目標とする。

《テキスト》

山縣文治編「よくわかる子ども家庭福祉」ミネルヴァ書房

《参考図書》

参考書等は、適宜紹介する

《授業時間外学習》

授業後、教科書の読み直しによる復習が大切である。

《成績評価の方法》

定期試験 70%、平常点（受講態度、質問・意見の発表など） 30%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		本講義に対するオリエンテーション
2		子ども家庭福祉の基礎概念
3		子ども家庭福祉をとりまく状況
4		子どもの権利保障
5		子ども家庭福祉の歴史的発展（イギリスとアメリカ）
6		子ども家庭福祉の歴史的発展（日本）
7		子ども家庭福祉行政の仕組み
8		子ども家庭福祉に関する機関
9		子ども家庭福祉サービスの施設（児童福祉施設の体系と運営、社会的養護と家庭的養護）
10		子ども家庭福祉サービスの施設（保育所ほか児童福祉施設について）
11		子ども家庭福祉サービスの実際（地域子育て支援、保育サービス）
12		子ども家庭福祉サービスの実際（虐待ケースへのサービス、ひきこもり・不登校児への福祉サービス、放課後児童健全育成事業、障害児福祉サービス、母子保健サービス）
13		子ども家庭福祉に関する地域活動
14		子ども家庭福祉サービスを支える人々
15		まとめ（今後の展望）